資料5

OSAKA LANDSCAPE AWARD 2025

第14回 みどりのまちづくり賞

枝透かし

枝透かし

万博記念公園日本庭園景観維持・創出及びマネジメント

［活動者］**阪神造園建設業協同組合**

Review

1970年の大阪万博の会場の一部として26haという広大な日本庭園がつくられた。戦後の関西ではじめて国際的に来訪者を受け入れるために、最高の造園技術を集結した作庭が行われた。せせらぎの園路を歩くと、上代から中世、近世、さらに現代へと各時代の景が移り変わるとともに「人類の進歩と調和」という一連の物語性も表現されている。このような作庭の意図を深く理解するとともに、50年以上の歳月の中で大きく変わってきた自然の状態を的確に捉え、当時以上の庭の質を維持するための不断の手入れが行われている。ここに庭は展示装置から、この地に相応しい風土へと昇華されつつある。

歴史のある庭園であればあるほど、樹木の植え替えや大透かしのような大胆に手を入れる管理には、十分な知識や経験が不可欠であり、ともすれば敬遠されがちである。ここでは手入れが適切に行われているだけでなく、作業の公開やガイドツアーなどを通して、高度な技術が広報手段としても生かされている。さらに、伝統技術を後世に伝えていくために、若い職人や学生への講習会・技術指導が重ねられており、庭園が生きた自然の場所であると同時に、生きたコミュニケーションの場としても機能している。

大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻　准教授　武田 重昭

Outlin

この活動は、1970年の日本万博の政府出展として作庭された日本庭園の作庭意図を理解し、当時の日本の造園技術の粋を集めて作庭された庭園の景観を維持しつつ、時間の経過の中で変容した箇所の修復と景観創出を図ることで、当庭園の特徴である古代からの現代にいたる日本庭園の変遷とスケールの大きさを、府内、国内、海外からの来園者に鑑賞し楽しんでもらえるようにすること。また、日本庭園特有の植物管理技術の指導講習、日本庭園ガイドツアーや景観ポイントスタンプラリー、更に日本庭園をテーマとしたシンポジウムやフォーラムの開催等により、昨年秋に文化財登録された当庭園が培った日本庭園管理技術の継承並びに普及、そして日本庭園への理解を深めてもらうための魅力発信を目的としています。この活動により、日本庭園並びに万博記念公園が地域に更には関西における緑の存在価値と、良好な緑を活用したまちづくり意識を高めることに貢献する。

開始時期：平成27年
所　在　地：吹田市千里万博公園　日本庭園

ランドスケープマネジメント部門